明日香地震気象研究所　代表者のメッセージ

東日本大震災を契機に、地震の調査研究の国家予算は、２０１０年度の１１３億円から、２０１１年度は４３２億円に急増したそうです。
地震学の様々な研究が飛躍的に向上し、海底地震計などの設置も進行中だそうです。
大地震の中・長期予想や被害想定もマスコミを通じて多くの人々に伝えられています。
しかし、地震の直前予知の研究は、多くの人々が切望しているにもかかわらず、阪神大震災以降は、不可能と判断されて、国家予算を投じた研究がほとんどなされてきませんでした。東日本大震災の翌年の２０１２年度でさえ、地震の短期直前予知の研究への国家予算は、１８９８万円だけだそうです。　直前予知研究（１～２日前）への予算はありません。
現在も、「地震の直前予知は、今の地震研究の現状では不可能に近い」という見解が行政や専門家や知識人の方々の常識のようです。

私の提唱する地震雲・気象の変化・衛星写真などを基にした地震直前予知法は、数多くの実例を検証して、様々な法則性を発見してきたものです。
９月の御嶽山噴火の予知はできませんでしたが、地震の直前予知は、かなりの精度で可能になりつつあります。（１～２週間前の短期直前予知ではなく、１～２日前の直前予知です。）
この２~３ヵ月の研究で、更に予知精度が高まったことを確信いたしております。

東海地震などの脅威が迫りつつあるなかで、実際に私が今できる効果的なことは、地震や気象や宇宙の専門家の方々との交流を深め、更に予知精度を高めてゆくことだと思っております。
そのために、明日香地震気象研究所が発信する「地震雲情報」を、多くの専門家の方々に無料で配信し、検証していただくように努めてゆきたいと思っております。
現状の不十分な研究体制のままで、「地震雲情報」をマスコミや一般の方々に伝えることはいたしません。　今は、予知精度を更に高めることに専念したいと思っております。

また、明日香地震気象研究所の運営費は、私の活動に賛同していただいた方々からの寄付金でまかなってゆきたいと願っております。
できるだけ多くの時間を、観天望気や情報収集などの地震予知活動に振り分けたいと願っております。
よろしくお願い申し上げます。

平成２６年１１月１日　　明日香地震気象研究所
代表者　　松本　安生